

## ICT を活用した授業づくり～タブレット端末を導入したら～

1 指導学年 小学校 6年生

2 指導教科 体育

3 単元名 跳び箱運動

4 単元の目標

○自分の能力にあった技に取り組み,助走から着地まで安定した跳び方ができる (技能)

○技のポイントを意識して,練習の場や方法を工夫しながら,めあてに合った練習ができる (思考)

○友達と教え合い,励まし合いながら,進んで運動し,場や器械・器具の安全に気を配ろうとする (態度)

5 評価規準

	運動の技能	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断
単元の評価基準	とび箱運動について,安定した基本的な技やその発展技を身につけている。	進んで運動に取り組み,約束を守り合って運動をしたり,場や器械・器具の安全に気を配ろうとしたりしている。	自分の能力にあった課題の解決を目指して,練習の仕方や技の組み合わせ方を工夫している。
具体的な評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の能力にあった技を安定した姿勢でできる。</li> <li>・いろいろな場を使い,今できる技の技能を高めたり,より大きな動きで新しい技を行ったりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と助言し合ったり,励まし合ったりして仲良く運動しようとする。</li> <li>・常に周りの安全や器械・器具の扱いに注意し,準備運動や後片付けを進んでしようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードや補助具を活用して自分に適した練習の場や練習の仕方を工夫している。</li> <li>・技を上達させるためのポイントを確認しながら練習している。</li> </ul>

6 ICT 活用の目的, 期待される ICT 活用の学習効果

① タブレット

児童が自分の動きを確認するために, 技を行っている姿をお互いに撮影する。

② NHK for school 番組・テレビ

児童が技のポイントを知ったり, 見本となる動きと自分の動きを比べたりするために, NHK 学校放送番組「はりきり 体育ノ介」を活用する。

7 ICT 活用コンテンツ・機器

・タブレット                      ・大型テレビ                      ・NHK for school 「はりきり体育ノ介」

8 指導過程 (3 / 7)

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ●評価(太字はICT活用場面)
導入 10分	1 整列・あいさつ 2 準備運動 跳び箱の素地作りの運動 ・カエル倒立 ・カエルの足うち ・馬跳び ・うさぎ跳び(足が中)	・バランスのとれるポジションを意識しよう。 ・頭・腰・かかとが一直線にできるかな。 ・胸にひざを近づけよう。	○それぞれの運動のポイントを押さえさせる。 ○複数の運動をテンポ良く、児童を賞賛しながら進める。
展開 25分	2 本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">かかえ込み跳びでとび箱を跳びこそう</div> 3 スモールステップでの練習 ① 跳び上がり乗りの練習 (とび箱に正座の姿勢で跳び乗る) ② 跳び上がりおりの練習 (とび箱に足の裏を着く形で跳び乗った後、遠くへ跳びおる) ③かかえ込み跳びに挑戦する。 (自分のレベルに合った場でのかかえ込み跳びの挑戦や練習をする。)	・これならできそうだな。 ・簡単に、跳び箱の上に正座できた！  ・さっきより、助走の勢いが必要だな。 ・腕も、強く突き放さないと、跳び箱の上には乗れないぞ。  ・自分の動きと上手な友達の動きを比べてみよう。	○ <b>タブレットを活用し、自分の動きがどうなっているか、友達と一緒に確認させる。</b> ○ <b>自分と上手な友達の映像を見比べ、どうするともっときれいに技ができるか、話し合わせる。</b>  ●かかえ込み跳びの技のポイントをおさえて練習することができる。(観察) ●友達と協力したり励まし合ったりして、安全にとび箱を跳んでいる。(観察)
終末 10分	4 本時の振り返り ・ステップアップカード(学習カード)を書く。	・○○君にアドバイスしてもらったら、きれいに跳べるようになった。	○本時をふり返らせ、次時のめあてにつなげる。

9 成果と課題

- 「踏み切り」「着手(手のつく位置)」「空中姿勢」「着地」等、ポイントごとに具体的なアドバイスを児童間で活発に行う姿を見ることができた。(学び合いの活性化)
- 撮影されることを意識することで集中力がUPすると同時に、自分の動作イメージをより強く意識して取り組ませることができた。
- 学習効果も高く、操作も簡単ですぐに授業に活用できるにも関わらず、タブレット端末を日常的に使用できる環境が整っていない。